

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	令和2年12月3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の組織的な研修体系があり スタッフの資質向上を目指し、社内外の研修に参加し、常にケアの向上を目指している。ケアマネジメント「センター方式」を活用し、利用者本位の個別性を重視したケアに取り組んでいる。平屋で中庭に出やすく、入居者様は自由にユニット間を行き来でき、スタッフは全員の方と顔見知りの関係です。コロナ禍でボランティアの受け入れは難しいが、月1回以上の合同レクリエーション、お茶会でユニット間交流を行い楽しみとなっている。近所の方からの野菜の提供、包丁研ぎをしていただいた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国規模で様々な事業を展開している法人であり、市内では2カ所のグループホームを運営している。また、法人全体での研修体制や福利厚生も充実しており、職員は介護技量の質を高めながら、利用者主体の支援に努めている。市の中心部にも近く、周辺は新興住宅が立ち並ぶ環境ではあるが、傍らには田畑も残っており、近隣との交流もある。今年度は、新型コロナ感染予防の為、地域との交流を自粛しているが、様々な感染症対策をした上で、工夫をしながらレクリエーションやユニット間交流などで利用者の楽しみにつなげている。ユニット間の連携で職員のチームワークも良く、明るい雰囲気のあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回会議の場で、スタッフが理念を唱和し、常に理念を唱和し、共有して、常に意識できるように実践している。 理念に沿って、ご家族との交流を行っている。	利用者が、住み慣れた地域の中で、安心して喜びや悲しみ、楽しみを分かちあえるよう、玄関や会議室に理念を掲げている。職員会議やカンファレンス、申し送り時にも確認し共有しながら振り返りを行い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHの記念行事に参加していただく。近所から定期的に野菜をいただく。学区の資源回収への貢献などを実施。近隣に子供が大勢住んでいるため、地域の方と相談し通勤時の車の運転に配慮を行った。あいさつは常に心がけている。	自治会長や民生委員の協力を得て、常に連絡を取り合うことが出来、情報を得ている。コロナ禍の今、買い物やイベント参加、地域との交流を自粛しているが、挨拶や資源回収への協力、野菜の差し入れを受ける等は継続ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の環境整備週間に合わせた環境整備を行ったり、隣接した敷地の除草を行い、近隣への配慮を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議を開催できず	定期的に運営推進会議を開催していたが、市担当者からも、今年度は開催しないと連絡があり、新型コロナ感染防止対策の為、開催を中止している。会議はないが、自治会長や民生委員と連絡を取り合い、つながりを維持している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため介護相談員の受け入れや、各種会議が開催されず	今までは、行政主催の研修に積極的に参加し、介護相談員を受け入れていたが、現在は、中止となっている。市担当者からはコロナに関する情報発信や電話が頻繁にあり、報告や相談を行いながら、必要に応じて管理者が窓口へ出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修会で不適切ケアの研修を行った。また、身体拘束を行わないよう普段のケアの中で、施錠や利用者本人の行動をさえぎる行為、言葉の制止を行わないよう取組んでいる。定期の委員会の内容はスタッフと情報共有している。	新型コロナ感染防止対策として、運営推進会議が中止となり、同時開催していた身体拘束廃止委員会も中止となった。職員会議で身体拘束について取り上げ、スピーチロックによる行動制限や、施錠についても話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については年度初めに研修を実施し、虐待防止への理解に勤めている。 委員会の開催し、内容を周知徹底している。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいた。今後も必要性を見極め、活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には早めの連絡を行い事前の説明や意見交換を行い、利用者本人様、ご家族様が納得された上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍ではあるが、入居時や面会時等の会話の中で要望を聞き、スタッフ会議にて検討している。	職員は、日々のケアの中で、利用者の意向や要望を聞いている。感染予防のため、家族との面会も制限はあるが、利用料の支払い時や、物品の持ち込みの際には、要望を聞いたり、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、年2回個人面談を行ったり要望を聞いている。普段から話しやすい雰囲気にも努めている。行事提案などが活かされるようにしている。	職員会議を月2回、全員参加で行っている。フロア別会議もあり、職員がいつでも意見や要望を出せる環境にある。管理者は、年2回の個人面談でも要望を聞き、職員から出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給している。様々な資格取得に対しての奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。シフトも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で外部講師による研修を実施。職員の力量に合わせて法人外の様々な研修への参加を奨励して、スキルアップを目指している。参加者には時間外手当を付与し、レポート提出にて他職員にも周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修が中止となっている。リモートで開催された研修に参加できた。出席できなかったスタッフはDVDの視聴を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、家族様から情報を得たり、入居後はスタッフ全員でアセスメントシートの24時間パターンシート(D-4)等を記入して情報を共有し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは入居前の事前面談時にゆっくりお話しするようにし、事前面談シートに記録している。困り事・心配事を話しやすい雰囲気を作り意見、要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今できる事・やれる事を見極め、食事作り、掃除、洗濯など、職員と一緒にしようとしている。料理の味見をしていただき、味を教えていただくこともある。畑で作った野菜の収穫や活け花をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの状態で不安に感じたことは家族様と相談し不安の改善に努めている。月次報告では日頃の様子が分かる写真を同封するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所、働いていた場所など馴染みの場所へドライブ巡りをしたりして会話を弾ませている。	現在、コロナ禍にある為、外出制限もあるが、馴染みの場所まで車で出かけ、車窓からの景色を眺めたり、人混みを避けて、寄り道するなど、気分転換を図っている。また、ユニット間での交流を支援し、利用者の馴染みの関係を繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら、利用者さん同士交流を持っていただけるように努めている。他ユニットとの行き来があり、顔なじみの関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族様が當んでいらっしゃるお店を利用させていただくなど交流を行なっているが、全員の方にはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、ケアカンファ・スタッフ会議で職員全員で利用者様の気持ちを探り、本人本位のケアができるよう努めている。	入居時、本人の詳細な情報を収集をする為、センター方式を活用して、利用者の思いや意向を把握している。また、日々のケアの中でも、利用者の気持ちや価値観を受け止め、職員間で共有しながら、介護計画にも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に記入していただいた暮らしの情報シートを職員で共有し、施設での生活支援に生かしている。また、暮らしの情報が不足している部分は、ご本人との会話の中から探るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を活用し、毎日の入居者の状態の変化を見逃すことのないよう、スタッフ同士で情報を共有し申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、職員全員で現在のご本人の状態を見極め、必要な支援は何なのか考えるようにしている。ご家族、医師、看護師の意見も加えている。	職員2名で利用者4名を担当する体制で支援している。カンファレンス会議で評価・検討を行い、関係者で意見交換をしながら、利用者や家族の意向を反映させて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアをするため、様子やうまくいったケアなどを共有し、その人に合ったケアを見つけ出している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時には、車イス・ポータブル加湿器を利用。褥瘡予防マットのレンタルやムース職などの配慮を行っている。車イス利用者の外出・通院時には、車イス対応の社有車にて対応している。立ち上がり難しい方は浴室用リフトを使用している。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブでは五平餅を買って食べ楽しんだ。また、園芸の好きな方と花の苗を購入し、一緒に植えて、水やりし成長を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がいる。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。	かかりつけ医は、利用者と家族が選択している。協力医は月2回の往診があり、整形外科・歯科の訪問診察もある。職員として看護師の配置があり、24時間、医師と連絡がとれる体制にある。精神科への受診は家族と一緒に職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置となっており、健康管理やスタッフへのアドバイス・スタッフからの相談・対応などの支援を行っている。受診同行、緊急時対応も行っている。時には家族への説明、医師との連絡もとってもらい24時間体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた時期には、家族、医師の意見を聞きながら、意向確認を行い、次の施設、病院などの情報提供を行っている。面会時、月次報告書等で日頃の状況を伝え、おとずれ終末期前からの経過を伝えている。	入居時に、重度化した場合の対応指針について説明し、同意書を交わしている。重度化した場合には、家族を交えて関係者で話し合い、意向を確認し、医療機関や施設等の情報提供を行い、不安なく移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救命講習を行えなかった。折を見て、緊急時の初期対応、救急車要請時の動きの確認などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがいき、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。今年度は消防署の立会いはなかったが、全スタッフが参加して訓練を行った。	今年度は消防署職員の立ち会いはないが、事業所独自で、火災訓練を実施している。ハザードマップで危険区域に該当していないことも確認している。緊急連絡網には地域協力者の記載があり、関係者には協力依頼をしている。	災害の種別に応じて、地域の協力者の役割を明確にした上での避難訓練実施が望ましい。また、非常時の持ち出し物品の検討と設置にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の人間性や性格をきちんと把握し、職員で話し合いながらその方に合った声かけ・対応を考えつつ行っている。	利用者の呼び名については、家族や本人の希望を確認しているが、馴れ合いになることのないよう、心がけている。排泄支援や入浴の介助時には、特に、羞恥心やプライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で、その方の希望や好みを理解しようとしている。希望がある事は声かけし自ら行ってもらったり、嗜好品を選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かをする時にはご本人に声をかけ、同意を得ながら、その方の一日のペースを大切にしながら過ごしていただくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、自分なりに着替えられてくる方には服装を話題にしたり、ヒゲそりの仕上げを行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を一緒にできることは行ない、味見、盛り付けなどを行うことで、食事を楽しみにしていただける工夫を行なっている。食後の下膳、テーブル拭きなどそれぞれの力に合わせてやっていただいている。時に郷土食や季節の料理を一緒に作っている。	事業者の畑で収穫した野菜も利用しながら、職員が交代で調理している。また、おやつ作りでは、お好み焼きやたこ焼き、季節に合わせて朴葉寿司、桜餅、柏餅などを皆で作り、楽しんでいる。外食は自粛し、テイクアウトで外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は嚥下機能等を確認しながら、その方に合ったものにしていく。各食事の摂取量と水分量をD-4に記入し、情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、その方の習慣もあり全員行えないが、夕食後は声かけし、皆さん口腔ケアを済ませて休んでいただく。年1回は口腔健診を行って治療につなげている。		

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パット交換の際には、排泄後のタイミングを見計らって、さりげなく交換させて頂くようにしている。	トイレまでの歩行も利用者の筋力低下予防と捉え、昼夜とも、トイレでの排泄を基本に支援している。転倒リスクのある利用者には、夜間のみポータブルトイレを使用する時もある。排泄用品取扱い業者から、適切な用品の選び方を学んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日のうち、昼食前に運動して頂けるよう体操の時間を設けている。毎日ヨーグルト、ヤクルトなど乳製品をメニューに入れたり、食物繊維をとれるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、その方に合った湯の量・温度と安心安全に入浴を楽しんで頂けるよう関わっている。入浴剤の使用やゆず湯、しょうぶ湯などを行っている。重度の方にはリフト付き浴槽へ順番を調整しながら入っている。	入浴は、週3回程度とし、利用者の状態に合わせて、清拭やリフト付き浴槽で安心安全な入浴を支援している。また、利用者の好みに合わせた湯温調整や入浴剤、また、季節を感じられるゆず湯や菖蒲湯など、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室にて休んで頂くようにしている。また、その方の体力や体調に合わせて昼寝の時間を設けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の記録に常に目を通し、症状の変化が見受けられるようであれば、スタッフ同士の話し合いを持ち、変化の確認をしている。医師、ナースとも連携を取っている。入居時には意向を確認し、医師と相談し薬の減量や形状変更などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日新聞を読まれる方やアルコールの提供など、スタッフ全員その方のお好きな事を理解し支援している。隣のユニットの顔なじみの方に会いに行く方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはベランダに出て、日向ぼっこをしたり、外でお茶をしたりしている。コロナ禍ではあるが、ドライブに出て紅葉を楽しんだりした。	天気の良い日には、周辺を散歩したり、ベランダや中庭での外気浴、お茶を楽しむ等で気分転換を図っている。以前は、外食を楽しむ機会を多く設けていたが、コロナ禍の今、外出は難しく、テイクアウトで外食気分を味わったり、花見ドライブで季節の景色を楽しめるよう工夫している。	

岐阜県 グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒にいった際には、欲しいものを購入できるよう支援している。財布を持って、お好きな物を買う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時、いつでも電話ができるように支援している。携帯電話を持ち、お好きな時に家族に電話して見える方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がまぶしければカーテンを閉められるので、それに合わせスタッフは空調、照明などを調整する。温度、湿度計を設置して確認している。トイレも重なり合う時は衝突のないよう誘導を行っている。リビングには季節の飾りを作ったり、庭の花を摘んで飾ったり、季節感を感じていただけるようにしている。	今年度は、感染防止対策として、窓越しからの見学となった。リビングは広く天井が高い。玄関には利用者が管理の役割を担っている観葉植物が置かれ、潤いある空間になっている。廊下にも椅子やソファがあり、利用者が好きな場所で、自由に過ごすことができる。職員は、常に共用場所の明るさや温湿度の管理と共に、除菌や清掃、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の様々な場所にソファを設置し、好きな時に好きな場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みのものを居室内で使用して頂くようにしている。写真や作成した作品を居室内に飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	居室には、クローゼットがあり、整理整頓がしやすくなっている。馴染みの小物や家族の写真を飾り、テレビ等も持ち込むことができる。動線を考慮して配置し、本人が居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けている。また、状況によりベッドセンサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		